

事業の目的

＜仮設住宅支援員さんの目指すところ＞

仮設住宅に住んでいる人全てが健康で前向きな生活を送れる環境をつくる

仮設住宅に住んでいる方が、仮設住宅からの卒業まで、健康を損なわず、あかるく、前向きに暮らしていくために、環境づくりの「お手伝い」を行うのが、本事業となります。

＜仮設住宅支援員さんの成果指標＞

談話室・集会所へ訪れる住民の方の人数

みなさんが多くの方とつながること、みなさんへ信頼し相談できる関係をつくること、談話室、集会所が楽しい場であること、来訪者数にはこのような意味があります。より多くの方が、談話室、集会所へ訪れる環境をつくっていきましょう。

事業役割分担

各帳簿の報告
団地ごとのシフト等の確認
業務の中での困ったこと、判断できないこととの確認
きない」との確認
きないと判断で

＜支援員さんの役割＞
仮設住宅での生活を取り巻く「お手伝い」と「つなぎ役」
目指す姿は、住民の皆さんが寄り集まる笑顔の空間の執事

- 1 談話室・集会所の管理
- 2 仮設住宅団地の見回り
※状況を見て、回数は、調整して大丈夫です
- 3 住民の皆様からの相談受付
- 4 物資、各種文書の管理・配布
※外部から直接依頼があった場合は、コールセンターへ確認
- 5 仮設住宅団地への訪問受付
※調査は必ず市役所へ事前受付
- 6 集会所利用予約の受付
- 7 コミュニティのお手伝い
※自治会の状況を見て、サポートを行いましょう
- 8 関係団体(生活相談員や保険士、NPOなど)との連携
- 9 広報の作成
- 10 各種帳簿の管理

イベント・物資等の受付状況報告
対応できない相談の連絡・確認

＜マネージャーさんの役割＞
支援員が活動をしやすくなるための「サポート」と「業務管理」

- 1 支援員からの相談対応
- 2 支援員への情報伝達
※緊急で全体に伝えたい情報など
- 3 各種帳簿内容の報告
※相談受付票、来訪者受付票を見て週報で集計
- 4 備品、各種資料の管理・配布
- 5 支援員さんの労務管理(土日の対応を含む)
- 6 各団地における改善点の提案

＜コールセンターの役割＞
事業全体の「情報集約」「発信の窓口」

- 1 住民からの相談受付
- 2 支援員からの相談引き受け
(支援員で対応できない相談への対応)
- 3 関係団体、自治体との連絡・報告
(各種支援やイベントなどの申し込み受け付け)
- 4 マネージャー・支援員への連絡、指示、状況確認等
- 5 各団地の利用状況、物資状況の把握

きたかみ震災復興ステーション事業のイメージ

実施主体:復興支援協働体

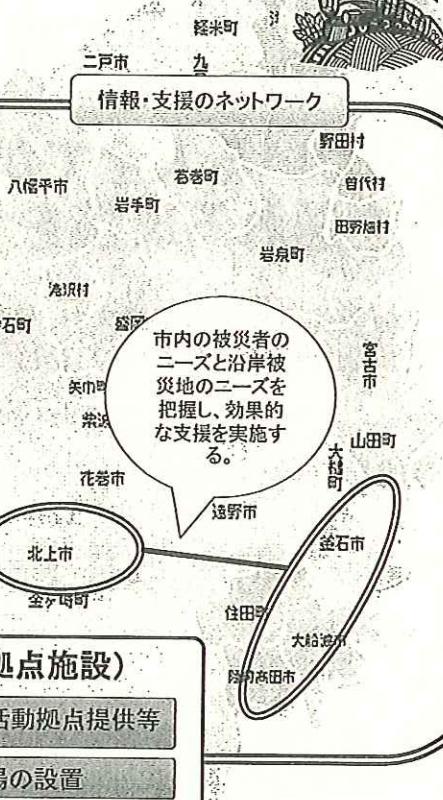
オレンジ色が当該事業
緑は、現在、北上市で行っている事業

市内ステーション機能

民間及び行政が行う、市内被災者、北上市への避難者向けの支援を可能な限り一元化し、効果的な支援を実施。来年以降は、北上市担当分も民間等が実施できるよう基盤づくりを進める。

- 被災者向け情報の収集・発信
- 避難者と地域の交流促進
- 被災者の就職・起業支援
- 避難者の生活環境改善
- 避難・被災者の巡回相談
見守り事業

情報・支援のネットワーク



共通プラットフォーム(拠点施設)

- 被災者の集いの場、支援団体の活動拠点提供等
- 交流・ネットワーク形成の場の設置

交流・研究ステーション機能

県外等からの支援者と、沿岸被災地を繋ぎ、効果的な復興活動を実践できるようする。

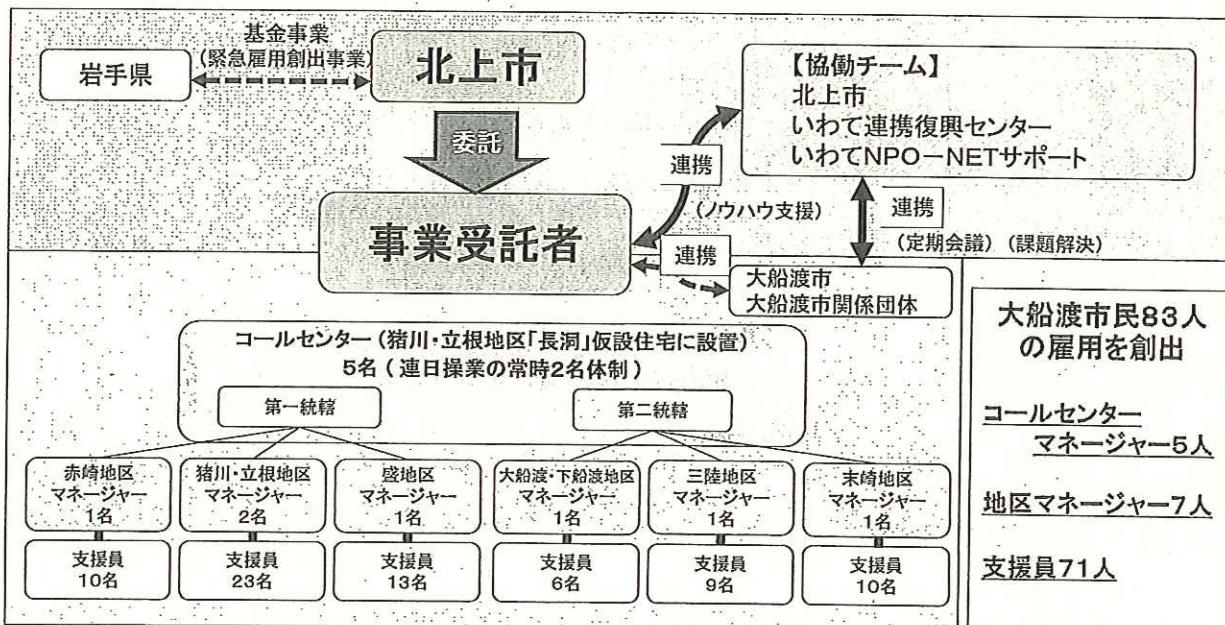
- 交流研究オフィスの構築
- 学生ボランティアバスの運行
- 各種団体・研究者のコンシェルジュ機能
- 被災地への交通・アクセス支援、
デマンド型路線の設置

その他復興支援機能

- 沿岸市町事務支援
(仮設住宅の運営支援等)
- ボランティアバスの運行支援
- 支援物資の配達支援

復興ステーションの意味
ステーションは避難者被災者向けには「支援業務を行う拠点」
被災地向けには「支援者と被災地を繋ぐ駅」という意味を持つ

【大船渡市仮設住宅運営支援事業】



- これまで北上市が培ってきたコミュニティづくりのノウハウを活かしながら、仮設住宅における生活課題の解決やコミュニティ醸成を支援。
- 同時に、被災地での雇用を創出。
- 北上市の事業として実施し、大船渡市には事務処理の負担をかけない。